

出席者：越島(四街道)・傍島(柏)・宮崎(赤いくつ)

嘉村(文科省 教科書課)・小林(文科省 教科書課)

松宮(視援奉)・島田(浦安るーぺ)・奥野(ルーペの会/神奈川)・由井(こだまの会)

勝井(たんぽぽ)・菅野(こだまの会)・深味(赤いくつ)・いさき(ルーペの会/神奈川)

深井(こくぶんじ)・雪本(さわやか)・小堀(豊明)・吉田(下丸子)

吉田(のあざみ)・付岡(赤いくつ)

日時：2023年3月22日(水)14:00～15:40

文科省の教科書課 嘉村氏・小林氏に参加いただき、デジタル教科書の現況と拡大教科書の今後についてのお話をうかがった。

〈全国拡大 zoom 参加者〉

〈文科省〉

Q. 現在のデジタル教科書の現況は

A. 先にデジタル教科書を活用している学校の実践報告・中央教育審議会により議論を重ね、2024年度より、まずは英語を一括導入する。その後、算数・数学を導入していく予定。

Q. 拡大教科書の依頼状況は

A. 教科書発行社・ボランティア 共に減少傾向にある。利用人数は、標準拡大教科書が1800名前後。ボランティア製作のものが100名弱。

ボランティアの皆さんには弱視者以外にも総ルビの製作をお願いしているが、デジタル教科書の音声読み上げ機能等で対応可能な場合はそちらに移行する方針だが、色・フォントサイズ等で特別な配慮が必要な児童・生徒の受け皿として引き続き協力をお願いしたい。

Q. 英語のデジタル教科書導入する学年とその費用は

A. 小学5・6年、中学1・2・3年で無償供与される

Q. デジタル教科書と併用の紙の拡大教科書の費用は

A. 中3までは紙の拡大教科書は従来通り無償。

Q. デジタル教科書は健常児と障害児は内容は違うか。

A. ソフトは障害の有無に関係なく、同一のものを使用する。端末の拡大・白黒反転等の機能により、学習することになる。

Q. デジタル教科書の機能はどの教科書も一緒か

A. 色反転やフォントの変更・ルビふり等各発行社によって異なる。

Q. 英語のルビ振りは

A. 英単語等のルビは対応できない。デジタル教科書の読み上げ機能の活用を。

Q. 家庭科・音楽等のデジタル教科書の発行状況は

A. 「教科書目録」を検索してもらうと一覧の記号・番号欄から分かる。
「◆」⇒デジタル教科書の発行予定
「※」⇒標準拡大教科書の発行予定

Q. 私達ボランティアもデジタル教科書は購入は可能か。見本展示はあるか。

A. 学校を通して購入するものなので購入は難しい。展示の予定もない。
各発行社の HP にデジタル教科書の案内があり、体験版もあるのでそれらを見ては。

【*他グループより
盲学校に問い合わせをして見せて
いただけることもある。】

Q. 拡大教科書作成時に、教科書の「右の図のように」等の表記があっても、図のレイアウトが下に行ってしまう場合でも、著作権を考慮して「右の」を省くことはできないか。

A. 省いていい。
文科省 HP に、拡大教科書の標準的な規格について提示されている。

2.各教科共通事項(2)仕様⑦より
「右の図の～」 「下の文章を読んで～」等の原本教科書の表記が、拡大教科書では当てはまらなくなる場合は、「次ページの～」等と適切な表記にする。またページ番号で明確に示すことが出来る場合は「7-2 ページの～」等、拡大教科書の実ページ番号で表記する。

Q. 標準拡大教科書は今後も発行されるか

A. 現在は、ほぼ全て発行されている。
今後は未定。発行者と相談していく。

Q. デジタル教科書を供与されても、見えにくさから使用困難な場合や、小学校入学後に学習障害と判断される場合は、期の途中でも拡大教科書への切り替えは可能か。

A. 教師や保護者との相談に応じながら、ケースバイケースで対応していく。

Q. 昨年のグループの活動状況に関するアンケートはどのように活用されているか

A. 各グループの活動状況を一覧にして、各教育委員会に配布した。これにより、学校・教育委員会から各グループの仕様(白黒反転・特大文字の対応等)を確認しながら、依頼できるようになった。

〈その他要望・意見〉

- * デジタル教科書が無償で供与されるのは良いことだと思う。紙の拡大教科書との併用は続けてほしい。
- * 学校の先生や教育委員会の担当者が、拡大教科書と製作に関わる諸手続きを理解していないケースが多い。その為、事務連絡がうまくいかない。
- * 拡大教科書製作に必要な書類が多い。教科書協会への手続きは郵送のみの受付。もう少し、手続き全般を簡素化できないか。

次回の zoom は 5 月 24 日の予定です。